



理事 故 菊竹倉二君

菊竹倉二君を悼む

楫 西 貞 雄

菊竹君の死は全く急であった。入院したので、見舞金でも集めようと先ず近い人々に回状を回している内に、もう間に合わないようなことになって終った。同じ勤めで、近くにいた私にさえ急であったのだから、他の人々には全く突然のように思えたことであろう。

たとえて見れば、自動車が崖から深い谷に落ちこんで行くような状態のように、後から考えると、私には思える。人工衛星とかなんとかいって見ても、彼の死をとどめ得なかった人間の無力さを強く感じる。

だが、今さらこんなことをいってみても仕方のないことである。

さて、菊竹君は福岡県の出身であって、学校は五高、東京帝大農学部卒業である。学校時代は同じ研究室であったが、彼は、よく本を読んで勉強家であった。

卒業してから、静岡県の計画課につとめ、もっぱら熱海の風致地区の係りをやっていたようだ。昭和14年関東州に移った。日本も大陸に大きな足がかりを持つようになり、技術者もどしどし大陸に出かけて行った時代である。終戦後、22年日本に引揚げて来るまで、約8年間、任地としては、一番長く、此所で結婚もし、敗戦をも迎え、菊竹君としては大連は最も思い出の多い土地ではなかったかと思う。

私の結婚祝いか何だったか、あちら風のお盆が私の所に焼けずに残っているのが、思い出の種である。そのこ

ろ私はちょうど、ハルピンの近くの阿城で見習士官をやっていたので、ハルピンで出張して来た菊竹君と会ったことがあるのを思い出す。

関東州では都市計画の外、関東神宮の造営事業にたずさわった。

引揚げ後、22年から26年まで広島県の計画課に勤めた。原爆後の戦災復興事業が主な仕事であったが、広島復興の映画も作ったことを聞いている。その映画で家族づれで一場面出演しているという話だが残念ながら私は見ていない。

昭和26年東京へ出て、首都建設委員会に転任し、30年建設省計画局都市計画課に移った。もっぱらその間、緑地地域や公園計画に専念したが、特にロンドンの緑地帯の研究をしていたようである。

31年11月25日永眠した。

菊竹君は、勝負事はほとんどやらなかった。碁も将棋もマージャンもほとんどやらなかった。たばこは少しのんだようだが、酒は体質上からもすきでなかった。だから、菊竹君とは話をしても、あまり遊びごとの話は出ず、主に仕事の話が多かった。たのしみは、写真や映画を見ること、子供をつれてのハイキングだったようだ。

菊竹君の都市計画方面の研究業績としては、「緑地地域の設定基準に関する研究」(昭和31年3月)の主要部分、「都市周辺緑地地域構成要素としての牛乳供給圏」(造園雑誌 昭和28年)等があるが、その外、ハーワードの「明日の田園都市」の全訳がある。出来れば、なんとか印刷にしたいものである。

なお、これは都市計画方面とは異なり、彼の名前も出ていないが、今、交通公社等で市販している観光案内書の「東京」等は菊竹君の筆になるものである。

まだこれから、数々の業績をあげたことと思われるのに、誠に惜しいことであった。

心から、菊竹倉二君の急逝を悼む次第である。

故人略歴

昭和9年3月	第5高等学校卒業
昭和12年3月	東京帝国大学農学部卒業
昭和12年8月	都市計画静岡地方委員会勤務
昭和14年9月	関東局勤務
昭和22年6月	広島県土木部計画課勤務
昭和26年6月	首都建設委員会勤務
昭和30年12月	建設省計画局都市計画課勤務
昭和32年11月25日	永眠

大正3年(1914)福岡県に生れ、昭和32年(1957)11月25日東京都にて没した。昭和9年3月第五高等学校を卒業、昭和12年3月東京帝国大学農学部農学科を卒業した。専攻は造園、今のいい方によれば緑地計画であり、卒論は都市林に関するものであった。

同年8月静岡県土木部計画課(都市計画静岡地方委員会)に勤務し、公園計画、風致地区等を担当した。昭和14年9日関東州庁土木部計画課に転じた。当時、都市計画の関係者も大陸に多く進出し、大陸方面は都市計画の面では新しい先進地でもあった。20年4月から8月までの間軍隊に属したが、終戦後22年3月内地に引揚げた。関東州にあっては、都市計画の業務の外、関東神宮の造営にたずさわった。また、その間「関東州州計画令と緑地問題」(都市公論23巻8号昭和15年)なる論文を書いている。

その後、昭和22年6月広島県土木部計画課に勤務、戦災復興事業にたずさわった。その間、広島復興の映画製



作に参加したことのことである。さらに昭和26年6月上京、首都建設委員会に転じ、首都東京の各種の計画、調査、研究に努力した。また昭和30年12月建設省計画局都市計画課に転勤、各都市の公園計画の推進に努め、「都市公園法」(昭和31年4月)制定に伴う作業に従った。

「都市公園と都市計画公園」(公園緑地18巻1号昭和31年)を発表している。当時は、各地の公園緑地計画に種々現状に合わない点があり、変更の問題が出ている時代でもあった。その間の研究としては、「緑地地域の設定基準に関する研究」(昭和31年3月)の主要部分を執筆している。

麻雀・碁等の勝負事は好まず、酒もあまり好きといえず、趣味は写真とか映画を見ることで、研究執筆が多かった。ハワードの「明日の田園都市」の全訳を行っていたようで、今も夫人の手元に残っているということである。当時の東京の観光案内書を書いたとも言われる。

以上のように、勤務としても、主として事業よりも計画畑の先端を歩いていたわけである。今後さらに立派な仕事が期待されていたのだが、今から思えば、誠に若くして逝ったと惜しまれてならない。